

優秀賞

裏の支え

香川県 香川県立高松工芸高等学校二年 白井 華梨

「お前を団体メンバーから外す。」
そう顧問に告げられたのは、三年間いっしょに部活動を頑張ってきた仲間だった。

中学三年生の夏、もうすぐ中学校総体が始まる時期だった。三年生にとったら、中学校の部活動生活の集大成でもあった。いつも通りに練習をしていたら、顧問が全員に集合をかけた。メンバー発表だった。私たちはBチームだったので、全国大会に行くことを目標とはしていなかった。ただ最後に三年間いっしょに頑張ってきた仲間と二分三十秒の演技をしたい。そう思っていた。しかし、団体メンバーに選ばれたのは三年生四人中三人だった。私は「どうして」と口から出るのを必死で堪えた。顧問は、選ばれなかった三年生一人にこう言った。

「今のお前の実力じゃ総体の時に最高の演技はできない。点を取るため、チームのためにお前を団体メンバーから外す。」

三年間きつく、つらく、厳しい練習をいっしょに頑張ってきたのに、ここで……。メンバーに選ばれた三年生は、

涙が出そうになった。でも、その子は涙を流すこともなく、「はい、分かりました。」

そう言った。顧問の話が終わると、沈黙が続いた。言葉に表せないほどの喪失感だった。目標がなくなった。これから何のために頑張るのだろう。もうどうでもいい。これまでであったやる気が一気にゼロになりかけていた。そんな時その子が言った。

「自分でも薄々と気付いと思ったし、分かっとった。団体メンバーに選ばれんことは。でも、みんながいっしょに演技したいって最後まで思ってくれてたことが一番嬉しい。だから、私の三年間は無駄じゃない。大事な仲間のためにチームのサポートを全力でする。だから、全員で頑張ろう。」

涙が止まらなかった。

「悔しい。悔しいよ。最後のチャンスだったのに。四人で踊れる最後の。一度でいいから四人全員で踊りたかった。悔しい。」

いつもは、真面目で、意見をあまり言わないキャプテン

が泣きながらそう言った。全員同じ気持ちだった。踊りたかった。悔しい。でも、「頑張ろう」と言ってくれた。「頑張る」ではなく「頑張ろう」。それがなにより嬉しかった。自分だったら言えるだろうか。笑顔で。一番自分が悔しくて泣きたいのに、他のメンバーに「頑張ろう」って言っただろうか。頑張れる。頑張らなくてはいけない。団体メンバーに選ばれなかった仲間の分も。そう思った。メンバー全員で新しい目標を立てた。悔いのないように最高の演技を。そのために、全員で一分一秒無駄のないように、暑い中、全員で汗を流した。今まで以上にきつく、厳しい練習だったけど、楽しかった。総体当日の日、今までの努力が報われ、ミスもなく最高の演技ができた。悔いはない。全員が笑顔で引退できた。中学校生活の最高の青春の一ページになった。それは紛れもなく、チームを全力でサポートしてくれた三年生のおかげだと思う。心の底から「ありがとう」と感謝の気持ちでいっぱいだった。

高校に入ってひさしぶりに全員で集まる機会があった。その時に、あの時の気持ちを聞いてみると、「悔しかったよ。最後だったし、踊りたかった。全員でも、今思うと顧問の優しさだったと思う。団体メンバーには選ばれなかったけど、いい思い出だよ。」

私は高校では選手ではなく、マネージャーをしている。



する側ではなく、サポートする側になった。選手の気持ちや分からなくて心折れそうな時、つらいこと、たくさんある。しかし、頑張っている選手を毎日見ていると、自分も頑張ろうと思える。大会で勝ったのを見ると自分のことのように嬉しい。あの子もこんな感じだったのかと思うと悪くはない。逆に楽しく感じる。私も、誰かをサポートして感謝される人間になりたいと思う。